

情報（国際機関動向）

The European Observatory on Health Systems and Policiesについて

泉田 信行*

I はじめに

システムを新たに創設したり改善したりする際に、そのシステムの機能を評価するために適切に設計された実験を事前に行えることはシステムの創設・変更から期待される利得や損失について有益な情報を与えてくれるであろう。しかしながら、医療制度を始めとする多くの主体が関わる社会制度については制度改革に先立って実験を行うことは費用の面や時間的制約の面、および倫理的観点から困難であることがほとんどであろう。

そのような場合においても、他国の制度改革について学ぶことは有益である。自国が予定する制度改革からどのようなことが起きる可能性があるかについて、正確に予測することは不可能であっても、他国の経験は一定の示唆を得ることは可能であろう。では、そのような他国の制度改革の情報はどのようにして収集できるか。そのひとつの極めて興味深い試みである“The European Observatory on Health Systems and Policies”（以下、Observatoryと略称する）の活動を、webページ¹⁾に提示されている情報に基づいて紹介することが本稿の目的である²⁾。

II Observatoryの組織・沿革

ObservatoryはWHO欧州地域事務所によって運営されている協同体である。政府で言えば、オーストリア、ベルギー、フィンランド、アイルランド、ノルウェー、スロベニア、スウェーデン、スイス、英国が協力している。WHO、EU、世界銀行の国際機関、イタリアのベネト州、the French National Union of Health Insurance Funds (UNCAM) やLondon School of Economicsおよびthe London School of Hygiene & Tropical Medicineも協働している。

III 刊行物

Observatoryの刊行物のうち、ここでは3種類を取り上げる³⁾。

1 Health system reviews (HiT series)

各国における医療システムの機能や進行中の改革や政治的状况について体系的に記述するものとされている。webサイトではその目的として、

・医療制度における組織や、医療サービスの提供と財源調達、主要な主体の役割に対する異なるアプローチの違いについて詳細な知識を得ること、

* 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部長

¹⁾ <http://www.euro.who.int/en/about-us/partners/observatory>

²⁾ 本稿の草稿にコメントをいただいた小島克久氏（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第2室長）に感謝申し上げる。もちろん、本稿に残る事実認識等の誤りについては著者個人の責任である。

³⁾ 取り上げていないPolicy briefs and summaries及びEurohealth等についても関心のある読者は是非ともwebサイトをご覧ください。

・制度の体系、過程、内容と医療制度改革の実行を記述すること、

・より深い分析を必要とする試みや分野を焦点化すること、

・医療制度の情報の広報手段や各国の政策担当者と分析者の間で改革戦略の経験の情報交換の場を提供すること

を目指しているとされている。報告書は各国の専門家とObservatoryの研究者の共同作業による。各国比較を容易にするために、報告書は定型化された様式にそって作成されている。なお、WHO European Regionにある国とOECD諸国が対象に含まれているとwebサイトでは紹介されているが、WHO Western Pacific Regional Officeの地域に分類されるモンゴルについても報告書が刊行されている。日本については、多田羅浩三氏（現大阪大学名誉教授）、岡本悦司氏（現福知山公立大学教授）の執筆によりSara Allin・Ryoza Matsuda編として2009年に刊行されている。

2 Studies

医療制度の機能や課題について二次的分析に基づいて深く分析した結果を提供する媒体とされている。Webサイトからダウンロードできるが、書籍として特定の出版社から刊行される場合もある。一円光彌関西大学名誉教授の監訳により2004年に刊行された『医療財源論—ヨーロッパの選択』は目にした読者も多いであろう。これもObservatoryのStudyシリーズの成果のひとつである。近年では、2015年にそれぞれ刊行された“Strengthening health system governance: better policies, stronger performance”や“Economic crisis, health systems and health in Europe. Impact and implications for policy”など日本の政策担当者や研究者にとっても興味深い内容が刊行されている。

3 Health Policy

2013年からHealth Policy誌との協力体制が稼働しているとされている。この協力により、医療政

策決定者に特に関連する論文がオープンアクセスとなっている。科学誌の論文をwebで閲覧するには課金されることが多い中、オープンアクセスの試みの例である。

IV 結語

Studiesシリーズの序文には「ヨーロッパ各国の政策立案者は、医療保障制度が追求すべき主要目標が何かについておおむね同意している。」と記されている〔一圓（2004），p.3〕。

他方で、「しかし、この明白な同意も、抽象的な政策のレベルにおいてしか得られていない。政策立案者が、これら目標を実際の医療保障制度の個々の仕組みに具体化しようとする、同じ原則もたちまち多様ななしかもしばしば相反する手段と変わってしまう。」とも記されている〔一圓（2004），p.3〕。このような場合に国際比較は望ましい政策を考えるために極めて有力な手段となり得るであろう。

欧州は1993年の欧州統合があり、加盟国ではその枠組みの中で国家が運営されている。EU自体は、医療を組織し、その供給を確保することは各国政府に任されており、EUの役割は国レベルの政策の補完であるとしている⁴⁾。2004年、2007年のEUの東方拡大を経て、医療水準や平均寿命についての加盟国間の格差も存在する。このような背景の下に、EUが打ち出す政策の方向性〔増井（2013a, b）〕をふまえた上でObservatoryの各種刊行物を読むことが必要であるし、それにより得るところが多いであろう。

参考文献

- 一圓光彌監訳（2004年）『医療財源論—ヨーロッパの選択』光生館。
 増井英紀（2013a）「EU保健医療政策の変貌とその背景（上）」『週刊社会保障』No.2730, pp.50-55。
 ———（2013b）「EU保健医療政策の変貌とその背景（下）」『週刊社会保障』No.2730, pp.50-55。

（いずみだ・のぶゆき）

⁴⁾ http://europa.eu/european-union/topics/health_en参照。